

作家 伊丹完さん 69歳



もう少し時間がたつていたら 出血多量で死んでいたかも知れません

愉快な病人“ち”

「ひほんじだわう？」

という感じでした。

自宅からほど近いファミリーレストランでいつ

ませていのもの道を家に向かって歩いていたのに、そこから記憶

が消えていた

飲まないので、自分の部屋でこっそり缶ビールを

4杯飲んで、会計を済みます。

でも、ふと気づいたら

もののように食事をし、

つものようにワインを3

グラム飲むが、1人で近所のアミレスで食事をしながらワインを飲むのが好き

ところに寝かされていた

のです。妻の顔がちらつ

なあとと思って自覚める

アミレスで食事をしながら、どこだかわからない

と、どこだかわからぬ

向かって歩いた私でした。その日もいつも

と見えたけれど、見慣れ

られない場所。そこが病院の

人食事とワインを楽しみ

が倒れた翌朝のこと

が倒れた翌朝のこと

です。

それは去年の秋でし

ました。会計を済ませて

家路についたのは夜10時

とわかるまでに少し時間

した。もし、誰にも気づ

かれていたら、出血多量

で死んでいたかもしれません。私は倒れたことも、

救急車で運ばれたことも

何も覚えていないんです。

せん。私は倒れたことも、

救急車で運ばれたことも、

何も覚えていないんで

す。

後ろ向きに倒れたよう

で、左後頭部を8針縫つ

たと聞きました。でも、

縫ってくれた病院はコロ

ナの影響で満室だったた

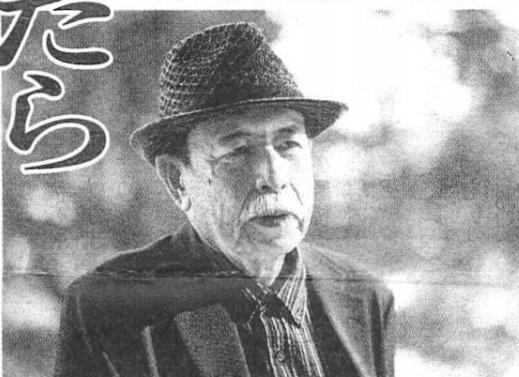
めに入院できず、少し遠

くの病院に移送されてい

ました。なので運ばれた

ときの情報も詳しくわか

らないままです。



▷いたみ・かん 1953年、大阪府生まれ。2022年に体験した「脳挫傷」を機に現在の名前に改名し、隠密長屋を描いた「大江戸秘密指令」（二見時代小説文庫）がシリーズ化されている。映画マニアであり、落語やミステリーにも造詣が深いため、執筆の傍ら、映画祭審査員、江戸講座講師なども務めている。

もうお酒はまったく飲んでいない

「脳挫傷」と「外傷性ぐり、退院。幸いなことにも膜下出血」と診断され、言語障害や半身不随といふ状況だったそうですが、3日間はICUで身動き

が取れませんでした。4日目には自分でトイレに行けるようになったのが、「そりゃ年齢だよ」と

仕事では、ちょっと新

しく持ち歩いています。

トルがスッと出てこない

ことが増した気がします

仕事で、「そりゃ年齢だよ」と

よく言われます（笑）。

シリーズ「大江戸秘密指

令」の最終チェック段階

が始まりました。最初はふらつきがありま

す。それが飲みたいとす

たが、1ヵ月ほどで日常

が戻ってきました。

ビリの先生の勧めで、病

に連絡をして、横になり

せん。毎日飲んでいま

し食事に付いてくる食前酒

も売れて……と良いこと

かねにもう少し時間が

たつたら、出血多量

で死んでいたかもしれません。私は倒れたことも、

救急車で運ばれたことも、

何も覚えていないんで

す。

「ひほんじだわう？」
という感じでした。
自宅からほど近いファミリーレストランでいつ
ませていのもの道を家に向かって歩いていたのに、そこから記憶
が消えていた
が倒れた翌朝のこと
です。

つものようにワインを3
グラム飲んで、会計を済みます。
アミレスで食事をしながら、どこだかわからぬ
ところに寝かされていた
のです。妻の顔がちらつ
たと見えたけれど、見慣れ
られない場所。そこが病院の
人食事とワインを楽しみ

が倒れた翌朝のこと
です。

つものようにワインを3
グラム飲んで、会計を済みます。
アミレスで食事をしながら、どこだかわからぬ
ところに寝かされていた
のです。妻の顔がちらつ
たと見えたけれど、見慣れ
られない場所。そこが病院の
人食事とワインを楽しみ